

大学院生 のための 進路選択 ガイド

Career Path Guide



S-cubic

研究が楽しくて
博士後期課程に
進学したけど…

アカデミアに
進みたいけど
将来が見えないし…

自分の専門を
活かせる企業が
思い浮かばない…

周りには
キャリア相談
できる同期が
少ないし…

研究が忙しくて
就職活動が
なかなか
できない…



そんなあなたは、まず企業と接し
てみよう、研究をするなら産業界と
いう広く大きな世界がある事に気が
付きます。

思いもよらない企業があなたによ
うな人材を探しているかも

P4でHi-Systemへまず登録、
P11へGo!

D2/D3/PD
Type.1

【研究没頭タイプ】

●一生懸命研究に没頭し、気づいたら…さて将来どうしよう!!

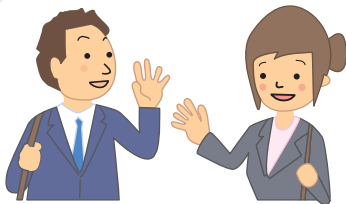
あなたはどのタイプ?

Type.2
M1/M2/D1

●DC進学か就職か、考え時だなあ…

●まだ余裕があるぞ、アカデミアか
企業か、しっかりと情報収集しよう!!

【計画設計タイプ】



そんなあなたは、自分の専門性の
活かし方を探ってみよう、そして
プラスアルファのスキル習得で大きく
幅を広げられるかも

P4でHi-Systemへまず登録、
P6へGo!

早いうちに複数の
選択肢を検討して
おきたい…

研究は楽しいけれど
博士後期課程は
将来が不安…

企業では
どのような研究が
できるんだろうか…

大学と企業って
研究のやり方が
違うのかなあ…

社会に出てから
役立つスキルを
身に着けたい

人材育成本部が提供するプログラム全体像

※どの段階からでも利用できます。

企業就職 ▶ 活動開始

実践参加型
(DC・PD)

⑪ 博士力実践インターンシップ

業務を経験
.....P16へ

⑩ 産学シーズ／ニーズマッチング人材交流会

企業で論議
.....P15へ

⑨ 企業事業所視察

企業を見る
.....P14へ

⑧ 赤い糸会&緑の会

企業と論議
.....P12へ

⑦ J-window (進路相談)

DC・PD限定
.....P11へ

余裕のないD2、D3、PDへ

⑥ ビジネスコミュニケーションセミナー

ステップアップ
.....P7へ

⑤ ビジネスマナーの基本と実践

常識を知る
.....P7へ

④ キャリアパス多様化支援セミナー

仕事を知る
.....P10へ

③ Advanced COSA

企業を知る
.....P8へ

② キャリアマネジメントセミナー

企業を知る
.....P6へ

余裕のあるM1～D1へ

① Hi-System 登録

まずは
ここから!

全員登録!
.....P4へ

意識改革型
(MC・DC・PD)

1 Hi-System登録 (Registration to the Hi-System)

MC・DC・PD

イベントの
お知らせが
届きます
(Event News)

企業情報や
就職情報の
閲覧が可能
(Company Info)

企業への
自己PRを
発信できます！
(Expose your PR
Information)

Hi-System

若手研究者 (MC/DC/PD) の社会活躍をサポートするWEBサイト
Exclusive information exchange platform



僕はアカデミア志向…
だけどTransferable Skill
はどんな場面でも必要だ。登録
して活用しよう!



MCでの就職も、DC進学後に
就職するのもおもしろそう。
情報やイベント満載だわ!
早く登録しよっと。



まずはご登録
ください!

Hi-Systemへは人材育成本部ホームページよりアクセス!
<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/>
左バナー「Hi-System」→Hi-Systemログインページへ



みなさんをサポートするメンバーです



S-cubic

人材育成本部 特任教授
樋口 直樹
(ひぐち なおき)

S-cubicは10年以上前から医・歯・獣医を含む理工系大学院生のキャリア形成支援活動を推進しています。DC進学を考えているMCから、DC在学学生、またPDの皆さんが、特に産業界へ進むために必要な情報や実践スキルの提供、カウンセリング、産業界とのマッチングの場の設定、インターンシップ派遣など、幅広く濃密なサービスを提供しています。Hi-Systemに登録し、積極的に活用して下さい。

スタッフ

特定専門職員 上野 あゆみ
事務補佐員 和田 優生
技術補佐員 山本 規世
技術補助員 平 美郁

I-HoP

人材育成本部 特任教授
飯田 良親
(いいた よしちか)



I-HoPはS-cubicで実施しているプログラムを、日本語に堪能でない外国人研究者に対して展開できる仕組みを構築することをミッションとしています。英語のみでのカウンセリングなど、是非ご利用下さい。

スタッフ

事務補佐員 高木 美香



COFRE

人材育成本部 特任教授
吉原 拓也
(よしはら たくや)

COFREはS-cubicで実施しているプログラムに加え、5大学（東北大学、名古屋大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、兵庫県立大学）の様々なプログラムを北大の皆さんに提供しています。是非、それらの開催情報をお知らせするHi-systemに登録し、企業と皆さんのマッチングやスキルアップにご活用ください。

スタッフ（DC・PD担当）

事務補佐員 永山 梨津子 事務補佐員 佐渡谷 有加



私たちが
サポート
します!

② キャリアマネジメントセミナー（授業）

1. 就職したい企業の分析法がわかる!
2. 企業の研究開発の考え方がわかる!
3. 企業マネジメント法を活用できる!



企業就職を目指す大学院生(MC・DC)や博士研究員(PD)向けの、1コマ毎の読み切りタイプの授業です。大学と企業での研究活動における考え方の違いや、企業研究人材として必要なマーケティング、マネジメント、プレゼンテーション、リーダーシップ、企画書の書き方など実践的な内容です。

昨年は300人を超す受講者がありました。函館の水産科学院にも同時中継しています。

H29年度実施予定

開催日時:平成29年4月10日～7月31日
毎週月曜日 3講時目(13:00～14:30) 全15回
工学部オープンホール(函館キャンパスへ中継)

日	講義内容	講師	
4/10	基礎研究から新事業への道	人材育成本部	樋口直樹
4/17	イノベーションを起こす	人材育成本部	樋口直樹
4/24	企業の種類と分析	人材育成本部	樋口直樹
5/8	マーケティング	工学研究院	金子純一
5/15	知的財産マネジメント	人材育成本部	吉原拓也
5/22	商品創造/新商品開発	キリン	横向慶子
5/29	プレゼンテーション	物質・材料研究機構/ 元NHK科学番組 ディレクター	小林隆司
6/5	M&A	豊田自動織機	加登久美子
6/12	プロジェクトファシリテーション	古河ファイナンス・アンド・ ビジネス・サポート	関尚弘
6/19	企画書の書き方	人材育成本部	樋口直樹
6/26	企業(1)先端技術と新規事業	日立アプライアンス	船山敦子
7/3	企業(2)先端技術と新規事業	旭化成	小池尚生
7/10	企業(3)先端技術と新規事業	マルハニチロ	小梶聡
7/24	企業(4)先端技術と新規事業	メタジェン/ 慶應義塾大学	福田真嗣
7/31	リーダーシップ	人材育成本部	樋口直樹



1. 大学院共通授業科目
「キャリアマネジメントセミナー(MOT関連)」(2単位)
2. 生命科学院 生命科学専攻 大学院(博士)専門科目
(研究指導科目を含む)
キャリア実践科目「キャリアマネジメントセミナー」(2単位)
3. 水産科学院修士課程学院共通科目
「キャリアマネジメントセミナー」(2単位)
4. 農学院選択必修科目
「バイオ産業創成学」(2単位)

受講方法

①Hi-Systemに登録し、イベント情報から「H29キャリアマネジメントセミナー」へ申込み。

②単位希望者は①に加えて所属部局に履修届を提出。

※詳細はシラバスをご覧ください

受講者の声



平成28年度受講者アンケートより

企業について全く何も知りませんでした。この授業を通じて知るきっかけになりました。自分が就活をするうえで企業の見るべきところが分かりました。

企業で働く上で重要なスキルについて、基礎から学べたのがよかったです。

研究室ではなかなか学べない自分のキャリアについてとその重要性・社会性などについて深く考えられる有意義な授業でした。

将来を考える良いきっかけになりました。

⑤⑥ キャリアマネジメントセミナー（演習）

1. 就活のビジネスマナーが身につく!
2. プレゼンテーション力が向上する!
3. コミュニケーション力が向上する!



社会との接点構築に必要なビジネスマナー（礼儀作法、服装、挨拶など）及びビジネスコミュニケーションに関するセミナーです。

ANAビジネスソリューション(株)より経験豊かな講師をお迎えしています。

ビジネスマナーの基本と実践

H29年度実施予定

平成29年10月(予定)

MC・DC・PD対象

スケジュール

- ・AM:講演(90分)
- ・PM:演習(270分)

平成28年度実施状況



講演

演習

ビジネスコミュニケーションセミナー

H29年度実施予定

平成29年11月(予定)

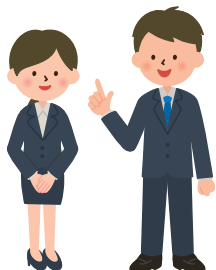
DC・PD対象(余裕があればMCも可)

スケジュール

演習 10:00~17:00

ビジネスマナーを含め企業の方とのコミュニケーションを中心に指導いたします。

相手に良い印象を残す話し方や、もう一度会ってみたいと思わせる話し方などコミュニケーションの取り方を中心に、自分の知識・情報・考えなどをより分かりやすく伝えるための自己表現方法を学びます。



第1部は大人数制の講演、第2部は少人数制の演習です。

第1部ではビジネスマナーの基本である接遇の考え方や言葉遣いなどについて講演していただきます。

第2部では第1部の基本をふまえたうえで、名刺交換や訪問応対などロールプレイを交えた参加型の実習を行います。

平成28年度受講者アンケートより

身近な例や隣席の参加者との演習を交えながら、コミュニケーション力向上のポイントやマナーの基本を学ぶことが出来た。

実際にシミュレーションを通して行えたので、活かしやすいと感じた。

特に訪問応対マナーは、今後、面接等に臨むにあたってとても参考になりました。

直さなければならない自分の悪いクセなど知ることができよかった。

平成27年度実施状況



平成27年度受講者アンケートより

セミナーを通じて他の受講者のコミュニケーション力、プレゼン力が改善されているのが感じられました。私のコミュニケーション力等も改善していけるように頑張りたいと思います。

就職活動にとどまらず、人に対する場面全てに生かせるような内容だったので実践して鍛えてみたいです。

③ Advanced COSA

1. 企業の研究開発の実際を知ろう!
2. 企業人の研究開発人生を知ろう!
3. 企業で活躍する先輩達と話そう!



企業研究開発の第一線で活躍されている研究所長や研究部長クラスの方を主な講師としてお招きし、大学の中では触れることの少ない企業研究の実際やその魅力、研究マネジメントや博士の活躍ぶりなどを事例も交えて紹介します。また、若手企業人の北大博士先輩もお呼びして年齢の近い企業研究者のお話しも盛り込みます。2日間の集中講義です。

1. 大学院共通授業科目
「理系・科学技術系大学院生のステップアップキャリア形成I、II」
—Advanced COSA(1)、(2)—(各1単位)
2. 生命科学 生命科学専攻 大学院(博士)専門科目(研究指導科目を含む)
「理系・科学技術系大学院生のステップアップキャリア形成I、II」
(各1単位)
3. 水産科学院修士課程学院共通科目
「ステップアップキャリア形成I、II」(各1単位)

H29年度開催予定

Advanced COSA(1):平成29年8月上旬(予定)

Advanced COSA(2):平成29年11月下旬(予定)

スケジュール

- | | |
|---|--|
| (1日目)
・ガイダンス(30分)
・企業講師①講演(120分)
・昼休み(60分)
・質疑応答(60分)
・企業講師②講演(120分)
・質疑応答(60分)
・懇親会(90分) | (2日目)
・企業講師③講演(120分)
・質疑応答(60分)
・昼休み(60分)
・企業講師④講演(60分)
・質疑応答(30分)
・総括討論、まとめ(30分) |
|---|--|

※詳細はシラバスをご覧ください

これまでの講演企業

(敬称略、五十音順)

■旭化成ケミカルズ	■味の素
■イーザイ	■応用地質
■大塚製薬	■花王
■カネカ	■キューピー
■神戸製鋼所	■コーセー
■サッポロビール	■サントリー HD
■JSR	■新日鐵住金
■酔鯨酒造	■住友化学
■住友金属鉱山	■住友林業
■ソニー	■中外製薬
■東急建設	■東レ
■日本IBM	■日本たばこ産業
■日本電気	■日本電産
■日本電信電話	■ノバルティスファーマ
■パナソニック	■ポッシュ
■丸紅	■ヤンマー
■ライオン	

平成28年度実施状況



住友化学・坂本講師



花王・川本講師



日本電気・佐古講師



三井物産・新免講師



三井物産・横井講師・飯牟講師



JSR・小宮講師



大塚製薬・前田講師



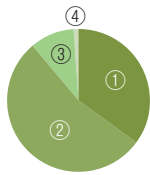
パナソニック・安部講師

平成28年度受講者アンケートより

質問1:企業での研究開発に魅力を感じたか?

- ①大変魅力を感じた
- ②ある程度魅力を感じた
- ③どちらでもない
- ④感じられなかった

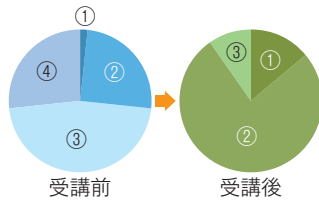
①②の肯定的な感想が89%



質問2:講義を聴く前後での企業研究の理解度の変化

- ①よく理解している
- ②ある程度理解している
- ③よく理解していない
- ④全く理解していない

①②のある程度以上理解の比率が27%→90%



■受講生より■

□企業での具体的な業務内容に加え、働いている人がどのような意識で事に臨んでいるのかを直接伺うことが出来て大変参考になりました。また、働くことは良い意味でも悪い意味でも思わぬことの連続(キャリア、出向、業務など)であるということがわかり、実際自分が働く際には臨機応変に対応出来るように、専門にこだわらず幅広い視野を持てるように努力しようと思いました。

□長年経験を積んだ研究者の方と、入社2年目の研究者の方のお話が両方聞け、様々な意見が知れて勉強になりました。セミナーなどではなかなか聞きづらいことも質問する機会があり、研究職のイメージが固まりました。

□講師の方々の多くは企業では大学と異なる分野の研究、自身が望んでいる分野と異なる分野の研究をしているということでした。しかし、専門と異なる研究でも楽しんで研究をしているところが印象的でした。

先輩からひとこと

川本 泰輔

Kao Germany GmbH, Safety & Toxicology
(原籍:花王株式会社 基盤研究セクター
安全性科学研究所)
H26年3月北海道大学大学院
歯学研究所 博士後期課程 修了



■大学での研究と就職活動

修士課程までは力学的刺激に生きた細胞がどう応答するかについて研究していました。博士では見聞を拡げるために研究室を移籍し、がんの悪性化や転移に重要な因子について研究を進めていました。修士で基礎よりの研究、博士ではより臨床・応用研究に近い研究を手掛けたことになりました。

就職活動では人の健康や美に役立つ仕事という軸と修士課程での専門性を踏まえ、製薬や化学品を中心に20社程度のエントリーをしています。修士の時に博士は就職に不利という漠然とした噂がありましたが、私はむしろメリットに感じました。専門性の奥行きと経験の幅が修士課程よりも広がっていたため、また、エントリーシートの志望理由や自己PRを説明するための材料が増えていました。興味本位で参加していた赤い糸会やAdvanced COSAでのお話を通して、自分の興味関心やスキルが整理されていた事も大きかったかと思っています。

■企業での研究開発と研究キャリア活用

入社2年目までは製品・原料の安全性評価を50%、基盤研究としてビッグデータ解析による新規安全性評価法の開発を50%程度の配分で手掛けました。どちらも一から勉強しているので結構大変ですが、大学院での経験ありきで業務を遂行できています。例えば、安全性科学に関する国際的な潮流を調査、予想される安全性上の課題を設定、解決策の提示・実行、こうした流れをフォロー出来るのは研究生活の賜物です。

また、入社後に博士号を取得する場合、会社にとって必要な技術習得がメインになります。期間も限られてしまうために、通常の院生生活よりも自由度は低くなりがちです。加えて、企業では大学ほど購読可能な文献が潤沢にあるわけではありません。その点、院生生活の間で自由に蓄えた知識が、日常業務における閃きの“バネ”になってくれることが多く感じます。

現在はドイツで日米独拠点における方針の統一化を目的としたプロジェクトに参画していますが、こちらは修士と博士で研究室を異動し、組織間での異なる考え方や視点の違いを経験したことが役立っていると言えます。また、対海外専門家とのコミュニケーションにおいては、博士号を取得していることで安心感を持って取り組んでいます。

アカデミアにしても企業にしても、キャリアを左右するのは結局のところ縁であると思います。学生時代には自身の研究テーマや研究室を離れる時間を意識して作り、出来る限り多くの見聞と交流を図ってみて下さい。人生に無駄な経験などありません。その回り道は後々自分の生業に役立ちますし、ご自身の将来において財産となるはずですよ。

OG Message

Advanced COSA に参加して

伊藤 正樹

北海道大学 大学院総合化学院
総合化学専攻 (DC3)
H29年3月修了予定
→株式会社メタジェン内定



自身の将来像を考えたとき、とにかく壮大なビジョンを掲げてオリジナリティの高い研究に取り組みたいことに気がつきました。また新たな先端技術を学びたかったこともあり、現在の専門分野と異なる領域であること、直感的に面白そうと思うことの2点を条件として企業、独立行政法人、海外など様々なキャリアパスを模索してきました。研究機関であれば研究グループや研究者の論文などの公開情報を利用できるのですが、一方で企業に関しては誰が、どこで、何を思っており、どれほどの規模で活動しているのか、といった現在進行中の研究を知りたくとも検索に手間がかかるうえホームページを見てもいまいち把握できず後回しになっていましたので、企業の研究者の生の声を聴くことのできる機会としてAdvanced COSAを活用しました。

実際に参加してみると多様な分野から企業の方々が登場されるため、自分がこれまでに関心を持っていなかった企業が実はチャレンジングな研究を始めていたり、よく似たイメージの企業でも重点分野や方向性が異なるなど実に多くの発見があり、どの分野で今何がホットなのか、何が次の課題であるかを明確に捉えることができました。またマーケティングや販売といった経営戦略に関する話題は普段なかなか耳にする機会がないのですが、自分のキャリアパスにいずれ関わることと思えば、慣れない単語を覚悟して講義に臨んでも実際には噛み砕いた説明をして頂けるので非常に貴重な経験でした。全体を通して特に興味深かった発見は企業ごとに求める人材が異なることです。ひとくちに博士人材が欲しいと言っても、研究で身につけた深い専門知識で分野の拡充を図るのか、異分野への拡大に際して矢面に立てる人材を欲しているのか、など博士の特性のうちどのような点に重きを置いているかを知ることが、その後企業について調べるに際し良い指針になりました。

Advanced COSA 最大の特徴は登壇者と聴講者、運営の人材育成本部の方々を交えた懇親会で、むしろ懇親会が内容の8割を占めています。講師に直接質問をやりとりできるだけでなく、今回は発表に載せなかったんだけど...というこぼれ話から発見をすることも多々ありました。また人材育成本部の先生方がどのような想いやテーマ性をもってその回の登壇者を設定したのかという運営の裏事情を知ることで、より深い理解にもつながっています。

私はこれまでアカデミックなライフパスを辿ってきた先生方が集まる極めて“稀有”な環境を当然としてきたため、企業で本当に先端研究ができるのか? という懐疑的な疑問の答えを知るためにAdvanced COSAに参加しました。この講義を通じて出会った講師の先生方より企業理念や研究に関わる部分を知ることができただけでなく、研究と経済活動を両輪で回すことの難しさ、また面白さを学ぶことができ、企業が先導して推進する研究が世界を変える可能性があると感じています。このような機会を惜しげもなくご提供下さいました人材育成本部の皆様方には大変感謝し、この場を借りて御礼申し上げます。詐欺か宗教の広大な勧誘広告みたいですが、騙されたと思っていちどAdvanced COSAに参加してみてください。

④ キャリアパス多様化支援セミナー

1. 試験管を振る以外の理工系人生!
2. これからは交渉力が無いとダメ!
3. 自分のアイデアやスキルで起業!



キャリア形成に必要な情報の提供や能力の開発とともに、企業におけるプロジェクト推進の実際や、大学院生が大学内では得ることが難しい多様なキャリアの実際情報を、既にそのキャリアを獲得した社会人を招いて講義をしていただく内容です。具体的には研究者と最もかわりの深い知的財産権を扱う仕事、これからますます必要になる交渉学、さらには自身で起業するアントレプレナーシップなどについて、テーマを絞って講演いただきます。

1. 大学院共通授業科目
「博士研究者のキャリア開発研究—赤い糸会&緑の会—」(1単位)
2. 生命科学院 生命科学専攻 大学院(博士)専門科目(研究指導科目を含む)
「博士研究者のキャリア開発研究」(1単位)

前後期に2回～3回開催される講義形式のキャリアパス多様化支援セミナーのうち1回に加え、後期に開催される3回の赤い糸会のうち、1回以上の出席、さらに後期に赤い糸会と連動して開催される2回の企業事業所視察のうち、1回以上出席することが単位取得の必須要件です。

※詳細はシラバスをご覧ください
(単位に関してはDC限定)

H29年度実施予定

I(知的財産):平成29年6月下旬(予定)

企業での研究開発成果は知的財産権で保護する必要があります。そのためには技術を熟知し、論理的思考能力を発揮できる人材が必要になります。企業の知財活動の実際を学び、自身の可能性を探求します。

II(交渉学):平成29年7月(予定)

交渉学を学習するために作成されたケースを用い、交渉の事前準備と交渉シナリオ作成、ロールシミュレーション(模擬交渉)の実施と交渉結果のフィードバックを通じて交渉学の基礎を実践的に学びます。

III(キャリア創成):平成29年12月(予定)

自身の生み出したアイデアや研究技術を自分自身の力でビジネスにつなぐことができれば、これほど面白いことはないでしょう。事業を起こすことを実現した方から、その苦労や極意を学びます。

これまでの講演企業

(敬称略、五十音順)

IT教育研究所	アカリク
AgIC	王子HD
金沢工業大学	カブク
神戸製鋼所	サントリー HD
ジーンクエスト	シスメックス
積水化学工業	大日本印刷
東京富士大学	日本電気
ノエビア	パナソニックIPマネジメント
ビザスク	ブルックス
メタジェン	リバネス

平成28年度実施状況

I 知的財産



日本電気・榎山講師



積水化学工業・正原講師



ノエビア・大原講師

平成28年度受講者アンケートより

特許についてイメージが大きく変わりました。特許から企業の戦略や動向が決定していくことを知り、知財の重要性を認識しました。



パネルディスカッション

特許の保持が商談を進める上で有用であり、企業の利益に大きく貢献するという点で様々な事業がある中、知的財産事業は必要不可欠と感じました。また、世の特許情報を調査分析して有用な情報を作り出す技能のお話が印象に残りました。

II 交渉学



東京富士大学・隅田講師



グループワーク1



グループワーク2

平成28年度受講者アンケートより

非常に論理的であることに驚きました。自分の手札と切り方一つで展開を左右できることは大変勉強になりました。



意見交換

自分の強みを生かして、交渉を有利にもっていくことを日常生活の色々なことに応用できると感じた。

就職してから役立つと思っていたこと(交渉学)が、面接などにおいても重要だと思いました。



アイランド・栗飯原講師



リハナス・井上講師



メタジェン・福田講師

平成28年度受講者アンケートより

自分でキャリアを切り開く、新しい事をはじめするにはアイデア、行動力、仲間というものが重要なのだなと感じられました。

なかなか聞けない実際に起業したベンチャー企業ならではの話を聞けてよかったです。

⑦ J-window (進路相談)

DC・PD

1. 企業と博士の接点を構築します!
2. 博士専用進路(就職)相談窓口!
3. 担当はすべて民間企業出身教員!



主な就職先

(敬称略、五十音順)

■あすか製薬	■アステラス製薬	■アルプスシステムインテグレーション	■ウェザーニューズ	■エーザイ
■大塚製薬	■カネカ	■協和発酵キリン	■クインタイルズトランスナショナル・ジャパン	■クリンプロ
■コニカミノルタ	■JAきたみらい	■JNC	■塩野義製薬	■信越化学工業
■新日鐵住金	■住化エンバイロメンタルサイエンス	■住友化学	■住友電気工業	■住友ベークライト
■第一三共	■ダイセル	■ダイテック	■大日本住友製薬	■武田薬品工業
■竹中土木	■田辺三菱製薬	■ちとせ研究所	■チトセ浜理薬品	■帝人
■データフォーシーズ	■デンソー	■東芝	■東ソー	■とめ研究所
■富山化学工業	■日東電工	■日本化学工業	■ノバルティスファーマ	■日立製作所
■プリチストン	■ポッシュ	■マルハニチロ	■みずほ情報総研	■みずほ第一フィナンシャルテクノロジー
■三井化学	■ムトウ	■明電舎	■メタジェン	■ヤンマー
■ライオン				

『J-window を活用して』

西澤 瑞穂

北海道大学 大学院
水産科学研究院 海洋応用生命科学部門 (PD)
H28年3月 水産科学院博士後期課程 修了
→マルハニチロ株式会社内定



J-window は、DC から PD までの 4 年間、年 3 回程度、活用しました。博士の就職活動は、学部生よりも選考ステップが少なく、評価される点も異なっています。それは、全体の新卒求職者に占める DC の割合や、研究に携わってきた年数を考えると当然です。また、学部生よりも選考が早くはじまる企業もあり、学位審査のことを考えると、研究と並行して就職活動を進めていく必要があります。

そこで、効率良く就職活動を行うための手段のひとつとして、J-window をおすすめします。J-window では、「博士」の採用について詳しい先生に、就職活動に関する様々な相談ができます。私は主に、志望企業や業界の相談と参加していた赤い糸会（企業との交流会）の反省を行っていました。

J-window には、他の進路相談にはない利点があります。それは、民間企業の経験と博士号をもち、さらに博士人材の採用動向を熟知している先生に相談できることです。博士人材が企業就職を目指す場合、まずは現在の研究に近い分野を探ることが多いと思いますが、J-window では、自分に合いそうな意外な企業や違う業種を紹介されることがあります。自力でそのような企業を探しあてることは難しいため、就職活動の方向性を決める際に非常に参考になります。また、私は遠方（函館キャンパス）からの相談でしたが、交通費の補助があり、金銭面の心配がないという利点もありました。

J-window を長期にわたって定期的に活用したことで、博士人材としての自分の立ち位置や将来をはっきり意識し、効率よく就職活動を行うことができました。学位取得後について不安を感じている人は是非、早めの J-window の活用をおすすめします。

最後に、樋口先生をはじめとした人材育成本部の皆様には長期にわたり多大なるご支援を頂き、自分の中で最良の進路選択ができました。この場を借りて御礼申し上げます。

『J-window を活用して』

養王田 昌昭

北海道大学 大学院総合化学院
総合化学専攻 (DC3)
H29年3月修了予定
→ JNC 株式会社内定



J-window とは、以前企業などで博士採用の経験がある人材育成本部の先生方が、就職活動の相談やエントリーシートの添削、面接練習等をしてくれる博士専用の総合相談窓口のことです。

J-Window を知ったきっかけは、人材育成本部主催の赤い糸会の反省会で樋口先生らと話しをしたときでした。もともと面接など緊張してうまく話せるタイプではなかったため、就職活動をはじめたばかりの当初は周りに相談できる人もおらず、J-Window を使うこともためらっていました。一方、面接の場で自分の研究内容や自己 PR をわかりやすく説明するにはどうすればいいか思い悩んでいました。そのため思い切って人材育成本部の先生にコンタクト取り、今抱えている悩みを話しました。樋口先生をはじめとする 3 人の先生方全員に相談に乗ってもらっただけでなくまた模擬面接もしてもらいました。その模擬面接では、研究内容をわかりやすく説明する工夫や、話の仕方、話すときの表情などあらゆることを指摘されました。実際にこれら指摘されたこと気をつけて面接に臨んだことでかなりリラックスして対応することができました。J-Window を活用するまで一次面接を 3 回受けて 1 回しか通りませんでした。模擬面接を行ってからは希望していた会社の最終面接まで進み合格することが出来ましたし、他社の面接もほとんど通過することが出来ました。私は今更ながらもっと早くから J-window を活用すべきだったなと反省しています。これから就職活動を行う博士課程のみなさん、もし研究活動等でエントリーシートの作成や面接の練習など就職活動に多くの時間がさけなかったり、書類や面接が全く通過せずに思い悩んだりしている人はぜひ活用すべきだと思います。

最後に、樋口先生をはじめとした人材育成本部の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました!

⑧ 赤い糸会&緑の会

DC・PD



1. 博士に対する企業の期待を聞く!
2. 博士の力を企業にアピールする!
3. この場限りの濃密なマッチング!

企業約15、6社、若手博士研究者(DC,PD)約30~40名が一堂に会し、Face to Face の直接的な情報交換を行います。参加企業は自社の新事業、新規研究テーマ、博士人材への思いなどメッセージをショートトーク等により若手博士研究者へ発信し、若手博士研究者も自らの人となりや研究スキルをポスターで発表、企業担当者にアピール、密度の高いマッチングを狙います。ここからインターンシップや実際の就職につながった例は数知れません。

1. 大学院共通授業科目
「博士研究者のキャリア開発研究—赤い糸会&緑の会—」(1単位)
2. 生命科学院 生命科学専攻 大学院(博士)
専門科目(研究指導科目を含む)
「博士研究者のキャリア開発研究」(1単位)

前後期に2回~3回開催される講義形式のキャリアパス多様化支援セミナーのうち1回に加え、後期に開催される3回の赤い糸会のうち、1回以上の出席、さらに後期に赤い糸会と連動して開催される2回の企業事業所視察のうち、1回以上出席することが単位取得の必須要件です。

※詳細はシラバスをご覧ください

H29年度実施予定

- 第1回:平成29年9月(予定)
第2回:平成29年12月(予定)
第3回:平成30年2月中旬(予定)

スケジュール

- ・主旨説明(20分)
- ・企業講演(100分)
- ・昼休み(60分)
- ・企業講演(60分)
- ・若手研究者のポスター発表(110分)
- ・企業との個別交流(120分)
- ・情報交換交流会(90分)

これまでの講演企業

(敬称略、五十音順)

■IHI	■旭化成	■アステラス製薬
■アマゾンウェブサービス	■アミノアップ化学	■大塚製薬
■カネカ	■キューピー	■京セラ
■協和発酵キリン	■クレハ	■神戸製鋼所
■コーセー	■サッポロビール	■サントリー HD
■JSR	■JNC	■塩野義製薬
■新日鐵住金	■住友化学	■住友金属鉱山
■住友林業	■ソニー	■ソフトバンク
■第一三共	■ダイセル	■大日本印刷
■大日本住友製薬	■太陽HD	■大和ハウス工業
■田辺三菱製薬	■中外製薬	■帝人
■データフォーシーズ	■テルモ	■東急建設
■東芝	■東レ	■とめ研究所
■日本IBM	■日本水産	■日本たばこ産業
■日本電気	■日本電産	■日本電信電話
■ノバルティスファーマ	■パナソニック	■日立製作所
■富士ゼロックス	■富士通研究所	■プリチストン
■北海道システム・サイエンス	■ポッシュ	■マルハニチロ
■みずほ第一フィナンシャルテクノロジー	■三菱ケミカル	■ヤンマー
■ライオン		

平成28年度実施状況



本部長挨拶



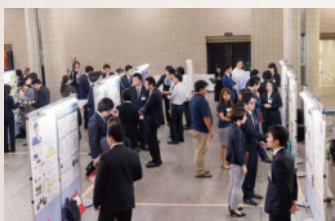
主旨説明



企業講演



企業講演



ポスター発表



ポスター発表



個別交流



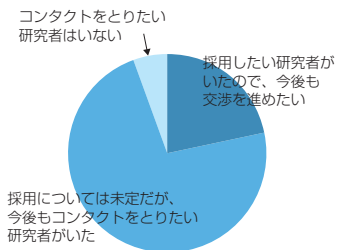
情報交換交流会

過去3回のアンケート結果

企業:48社・113名、研究者:132名

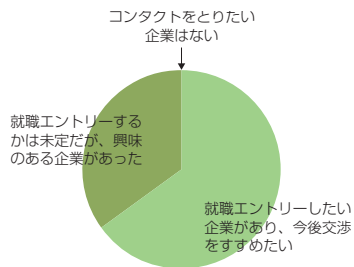
企業から見たDC-PD

コンタクトを取りたい:95%



DC-PDから見た企業

エントリーも考える:100%



■DC、PDより■

- 想像以上に自分の研究に興味を持ってくれる人がいたのが嬉しかった。この実感を持てたことはうれしい。
- 企業の方の発表では、短い時間で要点と、博士だから求められることなど、興味を持てる内容となっていて、視野を広げることができました。
- これまで考えていなかった企業が自分の研究に興味を持っていることがわかり、就職先の選択が増えました。

■企業担当者より■

- 博士課程の学生のレベルを知りたいのでとても参考になる。今後も参加し出来れば採用に進めたい。
- 研究をしている学生が集められていて参加のしがいがある。
- マッチングの場として有効。今後も続けて欲しい。

赤い糸会に参加して 和久田 真司

ヤンマー株式会社 研究開発ユニット
ソリューションセンター 資源循環グループ
H23年3月 北海道大学 大学院
農学院 博士後期過程 修了



赤い糸会は、博士課程の学生また博士研究員にとって多様な企業の研究者と出会い、企業活動への理解を深める絶好の場です。さらに、多くの参加者が企業に就職しています。私は、博士研究員の時に、赤い糸会がきっかけで就職した後、企業側の参加者として赤い糸会を経験しました。ここでは、赤い糸会をより充実した時間とするために、企業側の視点から、参加者が抑えるべきポイントを紹介します。

若手研究者と企業には、互いの理解を深める仕掛けが用意されています。事前に提出する資料と当日の交流です。企業側は、事前資料を社内の専門家に届け、マッチングを判断します。このマッチング結果を参考に、当日のポスターセッションで若手研究者にコンタクトします。このスケジュールの中で、若手研究者が気をつけなければいけないポイントが二つあります。一つ目は、事前資料がコンタクトの判断材料となっている点です。ポスターセッションが始まると、一部の若手研究者に企業参加者が集まる傾向があります。社内で共有され、検討されることを念頭に事前資料を作成する必要があります。二つ目は、企業側のポスターセッションの目的が、研究内容を理解することではなく、あなたの若手研究者としての将来性を感じ取る点であるという点です。大学から企業に研究の場が変わったとしても、あなたが実現したい夢は変わらないはず。そして、その夢を実現するための想い、姿勢は変わらないはず。日々、研究の中で培われた根幹の部分を伝える必要があります。

私は、現在、東南アジアで新しいコンセプトの農業ビジネスの立ち上げを担っています。博士研究員時代に、夢を実現するために理想的と考えた場所で私はチャレンジしています。ヤンマーは博士研究員の中途採用実績がない上に、私の専門領域と既存事業とのマッチングがなく、入社ハードルは非常に高いものでした。実はこの時、社員の方々が仕組みを作り、入社後後押ししてくれました。ヤンマーとの交流の中で、夢に共感した方々でした。是非、夢を目指す仲間との出会いを探してみてください。

最後に、人材育成本部の皆様には、博士研究員の時代から現在に至るまでご指導、ご支援を頂いたこと心から感謝申し上げます。人材育成本部のさらなるご発展と共に、若手研究者のますますのご活躍を願っております。

赤い糸会に参加して 須藤 慎也

北海道大学 大学院
総合化学院 総合化学専攻 (DC3)
H29年3月修了予定
→ライオン株式会社内定



私は博士課程2年時、計3回赤い糸会に参加し、それをきっかけに第一志望であった企業から内定を頂くことが出来ました。赤い糸会とは企業と若手研究者が一同に会し、Face to Faceの直接的な情報交換を行う場です。年に3回開催されるこの会は、毎回15社前後の企業が参加しており、若手研究者の参加数は30名程度であることから密接な交流が可能です。様々な分野の企業が参加するため、自身の専門分野の企業のみならず、異分野の企業と交流できる点はこの会の魅力の一つです。会の内容も企業からのショートトーク、若手研究者のポスター発表、企業との個別交流といった非常に盛り沢山であり、企業のパンフレットやホームページには載っていない重要な情報を得ることができるだけでなく、若手研究者から企業の方に自身の研究紹介や自己PRできる場を設けられている点は、一般的な企業説明会とは大きく異なる点であると思います。ポスターの魅せ方や発表方法等、独自の工夫を凝らす若手研究者が数多く参加しており、就職活動が本格化する前に自身を企業にどうアピールするかを考えさせられるのも赤い糸会の利点であると感じました。私の場合、企業と密接に関わる貴重な場である赤い糸会をより有効的に活用したいと考え、企業各社に対して能動的にアプローチするために、自身の研究発表の他に企業における独自の研究計画案を準備しました。具体的には企業各社の近年の取組みを調べ上げ、それをもとに自身のアイデアを組み込み、「こういった研究はどうか」や自分がその企業に入社した場合に「こういった研究をしてみたい」といった研究計画を企業側に提案するものです。事前に企業側に提出する旨でその旨を伝えておくことで、赤い糸会当日は興味を持って頂いた多くの企業の方が私のポスター発表に足を運んでくださり、非常に充実した会にすることができました。

また、会の後に行われる懇親会ではお酒や食事を交えながら企業の方々楽しく交流を図ることができ、お酒の力?のせいか企業の方から普段聞けない様なお話を聞くことができました。興味のある企業の方と懇親会後にすすきのに繰り出し、予想以上に盛り上がった結果、3軒はこしたことは非常に良い思い出です。

私が赤い糸会に参加した理由は、研究室の先輩のほとんどが赤い糸会をきっかけに内定を貰っていたことでした。実際に赤い糸会に参加して良いことづくめで、今では研究室の後輩達に赤い糸会の素晴らしさを伝え、積極的な会への参加を促しています。少しでも企業に興味がある方、会への参加を迷っている方は騙されたと捉えて是非赤い糸会に参加してみてください。

最後となりましたが、樋口先生をはじめとする人材育成本部の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて深くお礼申し上げます。

プレゼンテーション演習

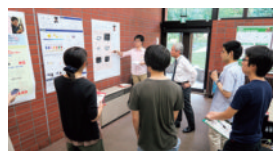
「赤い糸会」に参加する若手研究者は学会で専門家を相手に自身の研究内容を発表することには慣れていますが、ここに参加する企業の担当者は研究内容に関しては素人である場合が多いです。そのような相手に対し、専門性の高い内容をそのままぶつけても理解されません。本プログラムでは一般の人々に如何に自身のスキルや人間性を伝えるかを修得します。

平成29年度開催予定

- 第1回:平成29年9月初旬
- 第2回:平成29年11月下旬
- 第3回:平成30年1月下旬

講義内容

- 1.赤い糸会緑の会について3つのセッション
 - 2.ポスター発表について自己アピールに必要な3要素
 - 3.ポスター作成例についてタイトル、自己PR、研究報告
 - 4.コミュニケーションについて挨拶、プレゼンの極意
 - 5.赤い糸会緑の会参加要領まとめ
- 名刺、ポスター、積極姿勢



ポスター発表練習



講義

⑨ 企業事業所視察

DC・PD・(MC)



1. 実際に企業活動の現場を見よう!
2. 企業で活動する先輩と意見交換!
3. 自身が活躍するイメージを構築!

「赤い糸会」での若手博士研究者と企業とのマッチングのさらなる推進を目的として、企業の事業所を実際に訪問し、研究開発現場を実感するとともに、そこで働く企業研究者との交流から、自身のキャリアパスの多様性を感じ取り、人生を設計する一助とします。

1. 大学院共通授業科目
「博士研究者のキャリア開発研究—赤い糸会&緑の会—」
(1単位)
2. 生命科学院 生命科学専攻 大学院(博士)
専門科目(研究指導科目を含む)
「博士研究者のキャリア開発研究」(1単位)

前後期に2回～3回開催される講義形式のキャリアパス多様化支援セミナーのうち1回に加え、後期に開催される3回の赤い糸会のうち、1回以上の出席、さらに後期に赤い糸会と連動して開催される2回の企業事業所視察のうち、1回以上出席することが単位取得の必須要件です。

※詳細はシラバスをご覧ください
(単位に関してはDC限定)

平成29年度実施予定

道内:平成29年8月下旬(予定)
道外:平成30年2月下旬(第3回赤い糸会の翌日)



これまでの訪問企業

(敬称略、五十音順)

■IHI	■味の素	■出光興産
■王子製紙	■オエノンHD	■花王
■カネカ	■キューピー	■キリン
■クボタ	■サントリー HD	■塩野義製薬
■島津製作所	■新日鐵住金	■住友化学
■住友金属鉱山	■帝人	■東急建設
■東芝	■ニコン	■ニッカウヰスキー
■日本IBM	■日本新薬	■日本たばこ産業
■日本電気	■日本電信電話	■パナソニック
■日立製作所	■富士ゼロックス	■ポッシュ
■三井化学	■三菱化学	■三菱電機
■ヤンマー	■ライオン	

平成28年度実施状況



サントリー



サントリー



サントリー



サントリー



ポッシュ



ポッシュ



ポッシュ



ポッシュ

平成28年度受講者アンケートより

博士号を持っている研究者の方々のお話し聞くことで、博士号を取って入社した際に求められることや、どんな研究者になりたいかについてよく考えることができた。

実際に企業で働く研究員の方々のお話を聞くことで、仕事に対する姿勢、熱い想いが伝わり、この経験は私の研究活動への姿勢にも大いにプラスに働くと感じます。

企業の業務や博士に求めることなどの情報を得ることができ、これからの自分はそのような努力をしていけばよいかの参考になった。

⑩ 産学シーズ／ニーズマッチング人材交流会

1. 実際に企業活動の現場を見よう!
2. 企業視線での自身のスキル評価!
3. 大学と企業で研究の差異を認識!



これも「赤い糸会」に参加し、企業との接点を構築した若手博士研究者を、ただ企業を訪問するだけではなく、実際に企業の研究者の前で自身の研究内容を発表し、企業研究の目線で見られたコメントや指摘を得、意見交換をすることにより、具体的な産業界への出口のイメージを構築します。

平成29年度実施予定

- 第1回:平成29年10月(予定)
第2回:平成30年1月～2月(予定)

これまでの訪問企業

(敬称略、五十音順)

■旭化成	■大塚製薬	■カネカ
■神戸製鋼所	■サントリー HD	■秀和特許事務所
■住友化学	■ダイセル	■田辺三菱製薬
■特許庁	■日本電気	■パナソニック
■三菱レイヨン	■ヤンマー	

平成28年度実施状況



三菱レイヨン



住友化学



田辺三菱製薬



神戸製鋼所



大塚製薬



大塚製薬・研究発表



ヤンマー



ヤンマー・研究発表

産学シーズ／ニーズマッチング
人材交流会に参加して
高山 ゆりえ

北海道大学 大学院総合化学院
総合化学専攻 (DC3)
H29年3月修了予定
→株式会社カネカ内定



私は S-cubic 主催の産学シーズ／ニーズマッチング人材交流会に参加し、ダイセル (兵庫県姫路市) およびカネカ (大阪府摂津市) の研究所と工場を見学させていただきました。ダイセルでは「ダイセル式生産革新」と呼ばれ、他企業の参考にもなっている工場全体の仕組みを、カネカでは主に吸着型血液浄化器 (リクセル) の生産過程を見学しました。有機合成を専門にする私にとっては、至る所のスケールの大きさや、研究成果がすぐそばで形作られていく様子はとても新鮮でワクワクしました。また、大学での研究が産業とかけ離れていても、培った技術を生かせる場が整っているように感じる期待も抱きました。

最も刺激的であったのは、それぞれ設けていただいた参加者全員の研究発表の場で、現役の企業研究者の方々と自身の研究についてディスカッションするという経験でした。実際に質問されたことは、その後の就職活動において面接の場で問われた内容と共通することも多く、振り返ってみても大変貴重な時間を過ごすことができたと思います。また、専門分野に関わらず真剣に考えてくださる研究者の方々の姿勢や能力の高さを目の当たりにし、気が引き締まる思いでした。

正直なところ、本交流会の参加時点では「企業での研究とは」という部分をぼんやりとしか考えていませんでしたし、志望先も絞っていただけではありませんでした。そんな中で研究所や工場をじっくり見学し、自分の研究成果をもって体当たりすることで、間違いなく本交流会が私が具体的なビジョンを描くための転機となったと思っています。また、私の就職活動にとって大事な点は自分のやりたい分野と事業内容との合致だと考えていましたが、実際は最終的な決め手となったのは本交流会を始めとしてお世話になったカネカの社員の方々のお人柄、ならびに研究所や工場が動きやすい環境だと感じたことです。

就職活動を進める中で、説明会や工場見学などの機会を得ることはほぼあると思いますが、およそ半日のあいだ様々なお話を伺ったり、個別に研究発表をさせていただいたりすることは、他では類を見ない特別な体験でした。本交流会だけでなく S-cubic を通じた出会いが様々なご縁として繋がっていくのは、密な交流がもたらす距離の近さや見通しよさゆえに自然と興味も湧いてきて、積極的に就職活動に臨むことができるおかげではないかと感じています。

最後に、本交流会の開催にご尽力いただき、丁寧なご指導と多大なご支援を賜りました S-cubic の皆様に深く感謝申し上げます。

② 博士力実践インターンシップ

DC・PD



1. 実際に企業活動を体験してみる!
2. 自身が企業に向いているか判断!
3. 企業ならではの新しい視点獲得!

国内外の先進企業(グローバル企業・ベンチャー企業・オンリーワン企業)や公的機関、大学も含めたインターンシッププログラムです。企業における研究開発等の体験を通して、多様な社会での活躍方法を体得する機会です。平成21年度から平成25年度までの5年間、人材育成本部(HoP-Station)で本事業を推進してきましたが、58名の北大のDC・PDが38社の企業でインターンシップを経験し、その中でマッチングの成立した80%の人が民間企業への就職を果たし活躍しています。本事業は平成26年度より人材育成本部(S-cubic)が担当しています。

全ての経費ではありませんが、旅費、滞在費などの一部を支援する仕組みもあります。希望する企業との接点づくりから支援します。是非この機会に応募されませんか?

平成28年度実施状況

院生	インターンシップ先	所在地	期間
理学 DC2	鉄鋼	兵庫県	1か月
情報 DC1	金融工学	東京都	1か月
理学 DC2	金融工学	東京都	1か月
総合化学 DC2	電気機器	京都府	1か月
総合化学 DC2	化学	滋賀県	1か月
情報 DC1	海外大学	カナダ	1か月

インターンシップ概要

対象者	北海道大学に所属する博士後期課程院生、博士学位取得後5年以内の者(パーマネント職員を除く)
人数	10名
受入企業	国内外の企業
期間	1~3か月程度
条件	学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険(インターンシップ保障)に加入すること。その他詳細条件は受入企業によって異なる。

インターンシップ体験報告会

平成29年末か平成30年初に開催を計画中

インターンシップに行くまでの流れ



受入企業からの声

企業が博士に期待するもの

- 競争を勝ち抜く強い意思
- グローバルな視点と統合力
- 自ら課題を発見し、その解決策を生み出す力
- 市場のニーズを敏感に感じ取る知性と感性
- 基盤となる学術の確実な理解と、常に自ら学ぼうとする強い意欲に裏打ちされた異分野技術者とのコミュニケーション能力とフレキシビリティ

企業にとってのインターンシップの意義

- 大学との関係構築、協力関係の深化
- 優秀な人材の確保、発掘
- 新技術、新テーマの導入促進効果
- 職場の活性化
- 企業のPR

大学院博士課程で伸ばしておくべき能力

- 習った知識を駆使して問題を設定し、解決していく能力
- 複雑な課題を整理する能力
- 倫理的に考える能力
- アイデアを創造していく能力
- 異分野技術者とのコミュニケーション能力
- 文章で的確に情報を伝える能力
- 社会に対する幅広い関心

■アミノアップ化学	■アルファ水工コンサルタンツ	■医学生物学研究所	■クラシエ製薬
■栗山町農業振興公社	■KDDI研究所	■高研	■神戸製鋼所
■サントリー HD	■JFEエンジニアリング	■JAきたみらい	■JNC
■塩野義製薬	■新日鐵住金	■セラバリュース	■ダイナックス
■帝人	■データフォーシーズ	■東急建設	■東レ
■日生バイオ	■ニッピ	■日本IBM	■日本アレフ
■日本データサービス	■日本電気	■パナソニック	■阪大微生物病研究会
■ビアメカニクス	■日立製作所	■富士通研究所	■北海道システム・サイエンス
■マルハニチロ	■みずほ第一フィナンシャルテクノロジー	■三井化学	■三菱電機米国研究所
■ヤンマー	■リバネス	■Alberta University	■Bejo Seeds
■Duke University	■Dupont Pioneer	■NemGenix	■Starfighters

インターンシップに参加して 前島 恵理子

北海道大学 大学院
農学研究院 植物栄養学研究室 (PD)
H28年9月 農学院博士後期課程 修了
→ヤンマー株式会社内定



卒業後の進路について真剣に考え始めたのはD2になった頃でした。アカデミックの世界に進みたいという気持ちはもちろんあったものの、ありとあらゆる不安に苛まれ、企業への就職との間で気持ちは揺れていました。研究を行う上で、自身の興味関心を大事にする一方、「農業のために」という気持ちも抱いていました。いつかは世界の農業に貢献できるような研究者になりたいというのが夢の一つでもありました。その夢の実現を考えたとき、アカデミックの世界へ進むことだけが手段ではないのではないかと考え始めたのです。それまで頑なに拒んでいた企業への就職でしたが、夢実現の手段の幅を広げるため、そして「企業」を食わず嫌いで選択肢から外さないために赤い糸会への参加を決めました。その赤い糸会で出会ったのが、ヤンマーでした。企業理念に共感し、事業への興味を抱き始めました。

インターンシップを提案してくださったのは、北大で博士をとり、赤い糸会がきっかけでヤンマーに就職した大学の先輩でした。現在は新規事業として東南アジアを中心とした農業開発事業でご活躍中の先輩です。東南アジアなど不良土壌の広がる環境下での作物生産を最終目的とした研究をしていた私は、恥ずかしながらその現場を一度も目にしたことがありませんでした。そして「現場を見たい」という希望、また「企業は如何にして農業という現場で活躍できるのか」という疑問からその先輩に事業の現場へ連れて行って欲しいと懇願した結果、インターンシップを提案していただいたのです。

インターンシップでは実際の仕事の手伝いに加え、栽培試験を提案し、その設計・実施を行いました。実際に現地で行った試験は失敗に終わってしまいましたが、農地を見たり、現地の人と関わったり、現地のためにも事業を進めていこうとする姿を間近で見たりした経験は、私のその後の決断に大きな影響を及ぼしました。特に事業の実現に向けてスピーディーにやりとりが行われる現場を見て、アカデミックでの基礎研究だけではなく、企業から世界を変えていく方法もあると実感したことが、夢実現のために企業へ就職するという決断を後押ししたように思います。またインターンシップを通じて企業を知り、そこで働く人々と出会い、そして彼らの考えを知っていく中で、それまで悶々と考えていた不安や悩みがスッキリと晴れ、就職を前向きに考えてすすめることができました。少し勇気を出して行動してみても本当に良かったと思っています。インターンシップの目的は人それぞれでいいのではないのでしょうか。悩んで悩んだ挙句に起こしてみた行動は必ずや自分に何らかのヒントや答えを与えてくれるのではないかと思います。頭で悩んで堂々巡りになったら行動してみる、というのがこのインターンシップを通じて最も痛感したことかもしれません。

インターンシップに参加して 水上 雄貴

北海道大学 大学院生命科学院
生命科学専攻 (DC3)
H29年3月修了予定
→大日本住友製薬株式会社内定



この文を読んでいる皆さんは、「インターンシップ」というものにごのようなイメージを持っているのでしょうか。就職に有利になる、社会や業界の実態がわかる、業務を通してその企業への理解が深まる…ここで挙げた例は恐らくどれも正解になり得るものだと思います。私は「正解」は人によって異なり、インターンに参加した人がどのような意図を持ってそれと向き合ったかによって導き出されるものだと感じています。ここでは私が何を求めてインターンに参加し、そしてそこから何をj得ることができたか、すなわち「私にとっての正解」を記します。私の体験がインターンに参加しようか悩んでいる方の参考になれば幸いです。

私は小さな頃から抱いていた「がんの薬を作る」という夢を叶えるために、最初はインターン先として自身の専門分野である有機化学を活かすことが出来る製薬企業の研究所を志望し、受け入れ先を調整していました。丁度その頃、「人工知能」と「Internet of Things (IoT)」に関するニュースが社会を賑わせており、その技術の応用例として「創薬プロセスの効率化」が挙げられていました。私はこの「自身の専門外の分野からの創薬へのアプローチ」の実態に強く興味を持ち、当初の予定を変更してこの分野を牽引している企業である日本IBMへのインターンに参加することを決めました。このように「**キャリアパスを確定させることなく異分野での業務経験を積める**」のは、意外にも見落とされがちなインターン特有の利点だと思うのでここで強調しておきます。

実際にインターンに参加して感じたものは、「**博士**」という人材に対する期待と信頼度の大きさでした。私はインターン中の課題の1つとして、予備知識が無い人に対してIoTとはどのような技術なのかをわかりやすく伝えるためのデモアプリケーションの作成を行いました。これはIoT及びプログラミングに関する知識が求められる課題であり、アプリ対象者と同様に予備知識が皆無だった私は正にゼロからのスタートとなりました。前述した課題が私に与えられた理由は、博士人材のもつ「分野に依存しない課題解決力」に企業側が期待していたからだと考えられます。これは博士人材として企業に就職する私にとっては嬉しい出来事でしたが、それと同時に企業側が博士人材に求めるレベルの高さを物語るエピソードでもあると感じています。私はその期待に応えたい一心でインターン中にアプリを完成させ、それを技術文書としてまとめ直してウェブに公開することができました。そしてインターン全体を通して、これからの産業界のトレンドとなり得る技術の本質を理解すると共に、自分がこれまで培ってきた能力は異分野の業務においても通用するという自信を得ることができました。

以上のように、私にとってのインターンの「正解」は皆さんには一風変わったもの感じられるかもしれません。しかし、私がこれから属する業界を違った角度から眺めるという経験は、私にとって大きな財産となると確信しています。皆さんも「自分にとって価値のあるインターン」がどのようなものなのかを見出し、行動を起こしてみても如何でしょうか。

外国人DC・PDのための

I-HoP

For Young Researchers
from Foreign Countries

I-HoPは若手外国人研究者（博士後期課程、ポスドク）向けのキャリア形成支援を行っています。本学では、日本語を使わず英語のみで研究活動を行う外国人博士後期課程留学生、ポスドク研究者が増えています。そのような若手外国人研究者の中で、卒業後、ないしポスドク任期終了後も日本でのキャリアを希望する人々に対し、I-HoPはキャリアカウンセリング、能力強化プログラム、産業界とのマッチング事業などを英語で提供しています。対面式のプライベートなキャリアカウンセリングは事前予約制で、英語ないし日本語で行います。無料の日本語Eラーニング、3か月ごとに実施する日本語会話力検定（JSST）、ニュースレター、移転可能研究力強化セミナーやその他イベントへの参加登録、PRシートを公開することによる企業とのコンタクトなど…全てのI-HoPのサービスは、専用情報基盤Hi-System（<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System>）へ登録することにより受けることができます。

I-HoP (Hokudai International Human Resource Development Program)

I-HoP supports career development of young researchers (Doctor Course students and Postdocs) from abroad.

There are increasing number of international researchers who are studying only by using English. Some of them seek for careers in Japan after their graduation or completion of their postdoctoral terms. I-HoP provides career consultation, skills enhancement programs and matching opportunities especially for the industrial careers. Private face-to-face career consultation for international researchers is conducted in English or in Japanese by making appointment in advance. Free Japanese e-learning, quarterly Japanese Standard Speaking Test, monthly newsletter, registration to a variety of Transferable Skills Seminars and other events, making contact with corporations by posting your PR sheet... all I-HoP services can be accessible by registering to the Hi-System (<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System>), an exclusive information exchange platform.

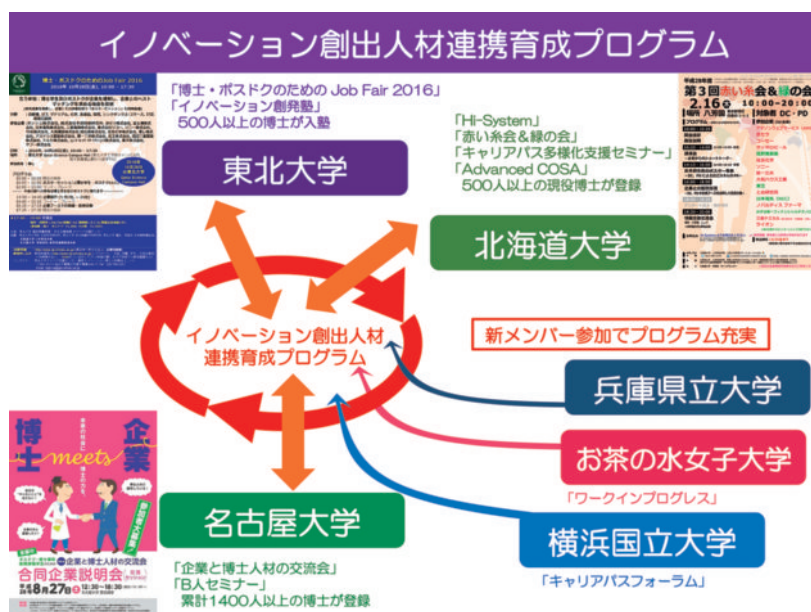
連携型博士人材育成コンソーシアム

COFRe(大学間連携)

連携型博士研究人材総合育成システム

イノベーション創出人材連携育成プログラム

2014年10月に文部科学省に採択された、連携型博士研究人材総合育成システムの構築事業により、北海道大学が代表機関となり、東北大学・名古屋大学の3大学のコンソーシアムが発足しました。2016年にはお茶の水女子大学、横浜国立大学、兵庫県立大学が連携し、6大学に規模を拡大しました。本コンソーシアムでは各大学が独自に設計、推進している博士課程学生（DC）や博士研究員（PD）に対する洗練されたキャリアパス多様化支援プログラムのうち、相互に内容の補強、補完が期待できるものを選定し、どの大学からも参加できるようにすることで、コンソーシアム形成のメリットを最大限生かした一層効果的な人材育成プログラムを構築します。これにより、例えば本学の赤い糸会に他の5大学からも参加できますし、5大学が実施する様々なプログラムに北大から参加も可能となります。参加希望者はまずHi-Systemに登録し、エントリーして下さい。



人材育成本部におけるS-cubic活動の紹介

北海道大学 人材育成本部 上級人材育成ステーション
 業務実施責任者
 教授 伴戸 久徳



人材育成本部の S-cubic では、大学院学生 (MC・DC) や博士研究員 (PD) 等若手研究者に対し、多様なキャリアパスを開くための能力開発プログラムを提供しています。これは科学技術・知識に基づく高度な研究力を有する研究者が社会の多様な分野において責任ある立場で活躍するために必要なスキル (Transferable Skills) を提供するプログラムです。平成 18 年度に S-cubic としてスタートして以来、多くの企業や教員の方々のご協力を得、10 年間の試行錯誤と改良を重ね、「Advanced COSA」、「キャリアパス多様化支援セミナー」、「赤い糸会」等の厳選されたプログラムを開発・普及・定着に努力し、さらに「キャリアマネジメントセミナー (MOT 関連)」、「博士力実践インターンシップ」の新プログラムを軌道に乗せることができました。

平成 23 年度以降はこれら単独、あるいは組み合わせで 4 つの科目を大学院共通授業科目として単位化しました。これ以外にも、MC・DC・PD と企業の登録制 Web コミュニケーションシステム「Hi-System」、DC や PD 専用の進路相談窓口「J-window」等のサポート機能を充実させています。その結果、多くの企業の方々から、「ぜひ北大のプログラムから採用を検討したい」などの嬉しいコ

メントが寄せられており、これは 10 年間の S-cubic 活動の積み重ねの成果と考えています。

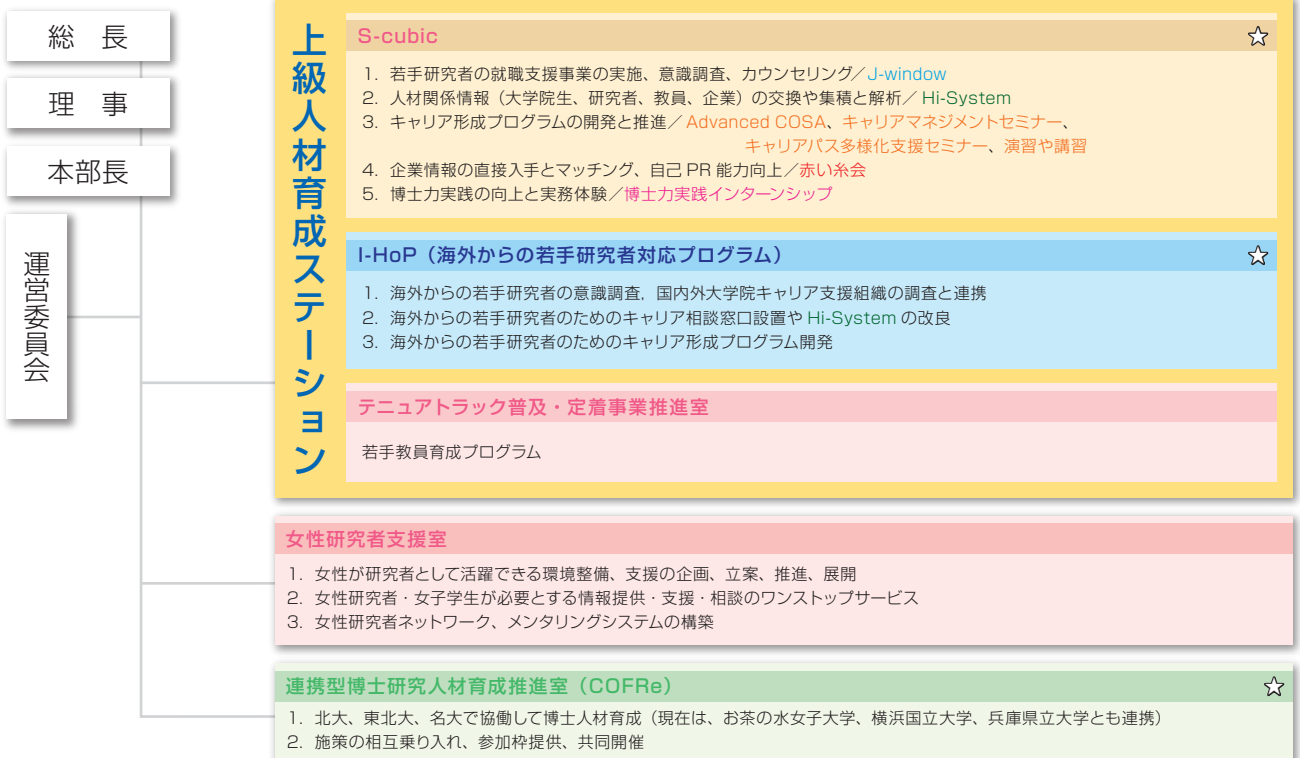
また平成 26 年度秋から、本学と同様に人材育成プログラムを展開している東北大および名古屋大の三大学がコンソーシアムを組み、それぞれのプログラムに相互乗り入れ、参加枠提供などの協働ができるようになったことで、ますますその内容が充実しています。さらに昨年、この人材育成コンソーシアムには新たに 3 大学が参加することとなり、そのプログラム群は多様な若手人材が集う場としていっそうの広がりを見せています。これらの実態については、本冊子に詳しく記載しましたので、ぜひ一読下さい。

S-cubic は、皆さんが自らの進路やキャリアを開拓していくために必要なスキルを身に付けるための情報や産業界とのマッチングの場等を提供します。まず Hi-System に登録しプログラムに参加してみてください。きっと視野が大きく広がると思います。またプログラム参加経験者は仲間にその情報を是非伝えてください。皆さんのご活用を期待しています。

人材育成本部

組織と役割

人材育成本部は、博士課程学生 (DC) や博士研究員 (PD) のキャリアパス多様化支援をはじめ、次世代リーダーとしてのテニュアトラック教員の採用と育成、また研究者を目指す女性の教員や学生のための環境整備・支援活動を行います。



☆: DC・PD のキャリア支援チーム

年間スケジュール(予定)

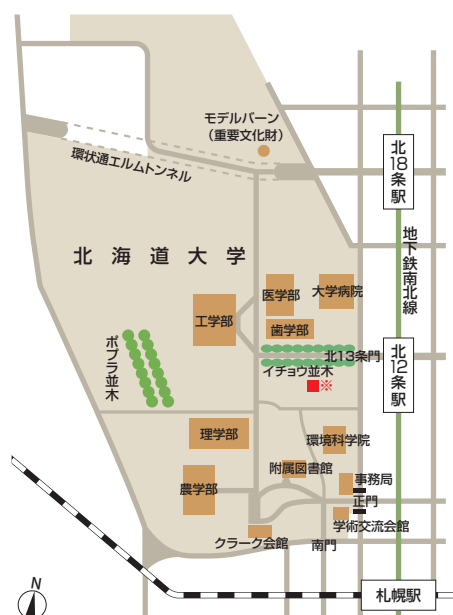
開催時期	アクティビティー	MC	DC	PD	単位
4月～7月	キャリアマネジメントセミナー(MOT関連)	●	●	●	☆
6月下旬	キャリアパス多様化支援セミナーI(知的財産)	●	●	●	☆
7月中旬	キャリアパス多様化支援セミナーII(交渉学)	△	●	●	☆
8月上旬	Advanced COSA(1)	●	●	●	☆
8月下旬	第1回企業事業所視察(道内)	△	●	●	☆
9月初旬	第1回赤い糸会のためのプレゼンテーション演習	×	●	●	
9月	第1回赤い糸会&緑の会(札幌)	×	●	●	☆
10月	ビジネスマナーの基本と実践	△	●	●	
11月	ビジネスコミュニケーションセミナー	△	●	●	
11月下旬	第2回赤い糸会のためのプレゼンテーション演習	×	●	●	
11月下旬	Advanced COSA(2)	●	●	●	☆
12月	第2回赤い糸会&緑の会(札幌)	×	●	●	☆
12月	キャリアパス多様化支援セミナーIII(起業)	●	●	●	☆
1月上旬	幕見の会(企業との意見交換会)	—	—	—	
1月下旬	シンフォスター	●	●	●	
1月下旬	第3回赤い糸会のためのプレゼンテーション演習	×	●	●	
2月中旬	第3回赤い糸会&緑の会(東京)	×	●	●	☆
2月中旬	第2回企業事業所視察(道外)	×	●	●	☆
2月下旬	博士インターンシップ体験報告会	●	●	●	

●受講対象 ○条件付き受講対象 △イベント開催案内参照 ×受講対象外

☆単位取得要件についてはシラバスを参照

※詳細日程や時間等はホームページでご確認下さい。

[URL] <http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/S-cubic>



北海道大学 人材育成本部 上級人材育成ステーション S-cubic

〒060-0812
札幌市北区北12条西7丁目
中央キャンパス総合研究棟2号館
※平成29年秋頃より
中央キャンパス総合研究棟1号館へ移転予定
TEL: 011-706-3275 FAX: 011-706-3584
E-mail: s-cubic@synfoster.hokudai.ac.jp
URL: <http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/S-cubic>



【発行元】北海道大学 人材育成本部 上級人材育成ステーション S-cubic
【発行日】2017.3.15